

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成18年3月23日(2006.3.23)

【公開番号】特開2005-14481(P2005-14481A)

【公開日】平成17年1月20日(2005.1.20)

【年通号数】公開・登録公報2005-003

【出願番号】特願2003-184335(P2003-184335)

【国際特許分類】

B 2 9 C 55/12 (2006.01)

B 3 2 B 27/36 (2006.01)

C 0 8 J 5/18 (2006.01)

G 1 1 B 5/64 (2006.01)

G 1 1 B 5/73 (2006.01)

B 2 9 K 67/00 (2006.01)

C 0 8 L 67/00 (2006.01)

【F I】

B 2 9 C 55/12

B 3 2 B 27/36

C 0 8 J 5/18 C F D

G 1 1 B 5/64

G 1 1 B 5/73

B 2 9 K 67:00

C 0 8 L 67:00

【手続補正書】

【提出日】平成18年2月2日(2006.2.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

【課題を解決するための手段】

かくして本発明の目的は、本発明によれば、一方の表面は中心面平均粗さ(WRaA)が5nm未満でAFMによる表面平均粗さ(ARaA)が4nm未満であり、

他方の表面は中心面平均粗さ(WRaB)がWRaAよりも大きくかつ4~15nmで、AFMによる表面平均粗さ(ARaB)がARaAよりも大きくかつ3~11nmであり、そして

静電密着剥離強度が5.0g/cm以下である二軸配向ポリエスチルフィルムによって達成される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

このような静電密着剥離強度の小さいフィルムは、走行性や巻き取り性を高度に高める頻度の少ない大きな突起の間に、小さな突起を多数配置したりすることによって得られる。

さらに具体的に、本発明の二軸配向ポリエスチルフィルムについて説明する。